

ホーム > 座右の医書 > 座右の医書2012

座右の医書2012



一冊の書籍との出会いが
医師人生を左右することもあります。
その出会いがもたらした豊かな医師人生・
エピソードを交えてご紹介いただきます。

医師としての技能や人間性は、患者さんと向き合う臨床の場でこそ磨かれるものですが、その経験をより深みのあるものにするためには、事前事後に書籍などによる自己研鑽も欠かせないと伺います。

ここでは、各分野で活躍される先生方に、若き頃に出会い読み込んだ医学書や、専門の道を進むにあたって契機となった書籍、後進に勧めたい書籍、あるいは、過去その道を極めようとする誰もが一読した歯ごたえのある書物などを、書籍との出会いのエピソードを交えてご紹介いただきます。

図書館や書店に溢れる膨大な書籍の山を読み漁っても、一瞬で消えていく書籍もある一方、心に足跡を刻む書籍もあることでしよう。

そんな「座右の医書」とでも言うべき良書に邂逅した後の自分は、もう昨日までの自分ではないはずです。

本連載を通して、医師人生を左右するほどの書籍との出会いが生まれれば幸いです。

Q 製品を調べる

製品名を入力

ア

- ▶ アイソボリン
- ▶ アカルボース
- ▶ アクリノール
- ▶ アシクロビル

PfizerPRO CONNECT

面倒な情報収集を
専任MRが
徹底サポート

スーパー指導医から学ぶオンライン講義
若手医師セミナー2016

書籍一覧



第12回

「ドクターズルール425 医師の心得集」他

木下芳一先生

島根大学医学部第2内科教授

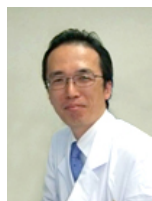


第11回

「臨床人類学－文化のなかの病者と治療者－」

山本和利先生

札幌医科大学地域医療総合医学講座教授



第10回

「科学者をめざす君たちへ 研究者の責任ある行動とは」他

福岡敏雄先生

財団法人倉敷中央病院 総合診療科主任部長、
救急医療センターセンター長、医師教育研修部部長



第9回

「市立堺病院における細菌感染症の現況」他

川島篤志先生

市立福知山市民病院総合内科医長



第8回

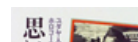
「極意を伝授1 さくさく入力 カルテ・オーダリング」他

齋藤宣彦先生

聖マリアンナ医科大学名誉教授、日本歯科大学客員教授



第7回



製品情報改訂のお知らせ

▶ 一覧はこちら

New 2016/12/01
▶ アデリール等5製品 経過措置
移行のご案内

New 2016/11/29
▶ 【更新】アイソボリン等5製
品 包装変更のご案内

New 2016/11/29
▶ 【更新】アレンドロン酸等8製
品 包装変更のご案内

2016/11/29
▶ 【更新】アナストロゾール錠等
5製品 包装変更のご案内

New 2016/11/25
▶ ミルナシプラン 使用上の注意
改訂のお知らせ 適正使用に関
するお知らせ

New 2016/11/25
▶ イフェクサー 使用上の注意
改訂のお知らせ 適正使用に関
するお知らせ

New 2016/11/22
▶ ゴレドロン酸 使用上の注意
改訂のお知らせ

New 2016/11/22
▶ ポラブレジック 使用上の注意
改訂のお知らせ



「思いやる勇氣 ユダヤ人をホロコーストから救った人びと」

大西秀樹先生

埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 教授



第6回

「臨床生理学シリーズ③ 胃」他

木下芳一先生

島根大学医学部第2内科教授



第5回

「Clinical Epidemiology: A Basic Science For Clinical Medicine」

山本和利先生

札幌医科大学地域医療総合医学講座教授

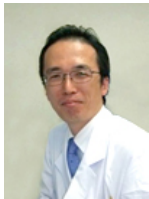


第4回

「Textbook of Medical Physiology」他

福岡敏雄先生

財団法人倉敷中央病院 総合診療科主任部長,
救急医療センターセンター長, 医師教育研修部部長



第3回

「Dr.ウィリス ベッドサイド診断」他

川島篤志先生

市立福知山市民病院総合内科医長



第2回

「蘭學事始」他

齋藤宣彦先生

聖マリアンナ医科大学名誉教授、日本歯科大学客員 教授



第1回

「原子雲の下に生きて 長崎の子供らの手記」

大西秀樹先生

埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 教授



関連コンテンツ

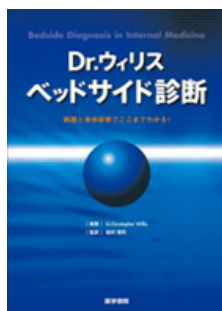
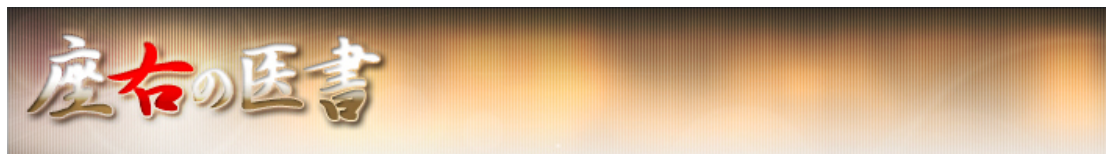
研修医に役立つ **医学図書ガイド** 改訂 第2版

あなたの臨床研修で、この一冊を見つけるために
医学図書をご紹介します。

[▲ Page top](#)

ホーム > 座右の医書 > 座右の医書2012 > 第3回 『Willis Note』 『Dr.ウィリス ベッドサイド診断』

第3回 『Willis Note』 『Dr.ウィリス ベッドサイド診断』



著：G. Christopher Willis
訳：松村理司
医学書院
2008

『Willis Note』 『Dr.ウィリス ベッドサイド診断』

身体所見に関する執筆や講演をすることになってから、よく「どの本で勉強すればいいですか？」と聴かれることが多くなりました。ただ、研修医1年目の自分を振り返ると、頂部硬直を頭部の可動域制限と取っていたり（医師になって2例目の症例で結核性髄膜炎だった）、不明熱症例で表在リンパ節の腫脹に気づけなかったり（悪性リンパ腫だった）、恥ずかしい限りの臨床力でした。

実はどの本で身体診察について勉強したのか、というのはあまり覚えていません。まとまった本というより、循環器系ならコンスタント先生の本「Bedside Cardiology 5th edition」。(Jules Constant, 著), Lippincott Williams & Wilkins, 1999 [和訳本「Bedside Cardiology」。(井上博, 監訳), 総合医学社, 2002] (2年目から研修を行っていた市立舞鶴市民病院にも来られ、直接ご指導もいただきました)、呼吸器系なら宮城征四郎先生の文献（現在は「身体所見からの臨床診断」。(宮城征四郎, 徳田安春, 編), 羊土社, 2009にまとめられています)、消化器系なら有名なCopeの本「Cope's Early Diagnosis of the Acute Abdomen 22th edition」。(William Silen, 編), Oxford University Press, 2010で勉強したような気がします [和訳「急性腹症の早期診断」。(小関一英, 監訳), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004も出版されました]。市立舞鶴市民病院では、病歴聴取と身体診察に関することを常に議論する文化がすでにあり、定期的に来られる「大リーガー医」からも、病歴聴取と身体診察の重要性を叩き込まれていたことも影響しているかもしれません。

ただ、その根底に流れているのが、「Willis Note」だと思います。「Willis Note」とは市立舞鶴市民病院などで臨床教育に尽力されたWillis先生が教育用にまとめた非売品のノートです。自分自身は残念ながらお会いしたこともなく指導を受けたこともありませんでしたが、Willis先生に直接ご指導いただいた先輩方からの耳学問はすぐに力になりました。先輩方が創りあげた土壌 = 恵まれた環境で研修ができたのだとあらためて感謝しています。もちろん、自分たちで「Willis Note」を頑張って読みました。製本されたものがあったのですが、自分たちには手に入れる権利(?)がなく、“大リーガー部屋（舞鶴に指導に来てくださった大リーガー医の控え室）”の本棚にあった本を自分たちでせせせと読み漁っていました。英語表記でしたし、内容的に難しい章もあり、勉強会が早朝であったことから、途中で挫折したことも事実ですが、本当に勉強になりました（神経の項目が自分には難しすぎます…）。

和訳されるとの噂を耳にしてから何年か経った2008年に、「Dr.ウィリス ベッドサイド診断」が出版されました。もちろん、すぐに購入しましたが、今は“宝物”のように本棚に並んでいます。英語版でも挫折した神経の項目などは、未だに読み込んでいません。経験が浅い医師にとっては、メリハリがなく少し読みにくいのが難点ではあります。しかし、実臨床と照らし合わせると、なるほど！とうなづける内容が満載であることで、身体所見を重視する臨床をしていると実感してもらえそうです（当院の若手も読み始めています！）。

さて最近では身体診察に関係する本もいくつか出ています。

自分自身が思うことは、身体診察は病歴があつてのものだということです。どんな状況で、どんな診察をするのか（活きた身体診察）、という観点で自分自身は「身体所見の小テスト」というのを創りました。もともとは院内の研修医教育用に作ったのですが、現在は講演やワークショップのネタになっています。これは舞鶴での経験を基に作ったので、「Willis Note」が基と言えます。

“狙った診察”や場に応じた身体診察について言及している「考える身体診察」（大滝純司, 監

Q 製品を調べる

製品名を入力



ア

- ▶ アイソボリン
- ▶ アカルボース
- ▶ アクリノール
- ▶ アシクロビル



スーパー指導医から学ぶオンライン講義
若手医師セミナー2016

製品情報改訂のお知らせ

▶ 一覧はこちら

New 2016/12/01

▶ アデリール等5製品 経過措置移行のご案内

New 2016/11/29

▶ 【更新】アイソボリン等5製品 包装変更のご案内

New 2016/11/29

▶ 【更新】アレンドロン酸等8製品 包装変更のご案内

2016/11/29

▶ 【更新】アナストロゾール錠等5製品 包装変更のご案内

New 2016/11/25

▶ ミルナシプラン 使用上の注意改訂のお知らせ 適正使用に関するお知らせ

New 2016/11/25

▶ イフェクサー 使用上の注意改訂のお知らせ 適正使用に関するお知らせ

New 2016/11/22

▶ ゴレドロン酸 使用上の注意改訂のお知らせ

New 2016/11/22

▶ ポラプレジック 使用上の注意改訂のお知らせ

修), 文光堂, 2011や「困りがちなあんな場面こんな場面での身体診察のコツ」(ジェネラリストのこれからを考える会, 企画), 羊土社, 2010も読んでみると本当に面白いです。

身体診察についての“教科書”的なものも必要だと思います。よく皆さんがベイツ「Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 10th Edition」。(Bickley, L. S., 著), Lippincott Williams & Wilkins, 2008のことをもち出すと思いますが、「診察と手技がみえる vol.1 第2版」(古谷伸之, 編), メディックメディア, 2007はよくまとまっていて、見やすい本です。OSCEには必須の本と聴きましたが、一般診療のレベルでかなり実践的な良書だと思っています。

「Physical diagnosis secrets 2nd edition」(Mangione, S., 著), Mosby, 2007〔和訳本「身体診察シークレット」(金城紀与史, 他監訳), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2009〕は通読する本ではなくて、必要なときに見る本になりますが、これはかなり面白い本です。臨床的に役立つ内容も多いですが、指導医的に小ネタが満載です。個人的に好きなネタは“大動脈弁閉鎖不全症のDe Musset徴候”です。実際の臨床に役に立ったことは一度もない(!)ですが、話のネタにしたことはいくらかもあります。皆さんもぜひ、見つけてください(ネタばらしになってしまいますが)。

このような書籍を通して、病歴と連動した身体診察の重要性を理解し、その所見の取りかたを再認識し、身体診察の面白さに気づいてもらえるとうれしいです。ただ、最終的には、臨床現場で活かされる身体所見を眼のあたりにすること、現場で議論することが重要です。病歴聴取と身体診察で勝負できる、またそのよさを伝えてくれる臨床医(Clinician educator)が増えてくると、日本の医療も変わるかもしれないと思っています。

PROFILE

川島篤志

市立福知山市民病院総合内科医長

1997年筑波大卒。2008年11月から現職。福知山に移って丸3年が経過しました。「専門内科が働きやすい病院、総合内科が活躍できる病院、研修医が生き活きと働ける病院」をめざして、総合内科診療/医学教育/地域医療との連携にじっくりと取り組み、「研修病院機能を持つ地域基幹病院の総合内科からの地域医療への貢献」を全国に発信しようとしています。京都府としての取り組み(KMCC)にもかかわっています。ブログもありますが、興味のある方は一度見学に来てください。



関連コンテンツ



あなたの臨床研修で、この一冊を見つけるために医学図書をご紹介します

[▲ Page top](#)

[PfizerPROとは](#)

[サイトマップ](#)

[会員規約](#)

[プライバシーポリシー](#)

[Terms of Use](#)

[メディカルアフェアーズとは](#)

[Copyright](#)

[お問い合わせ](#)

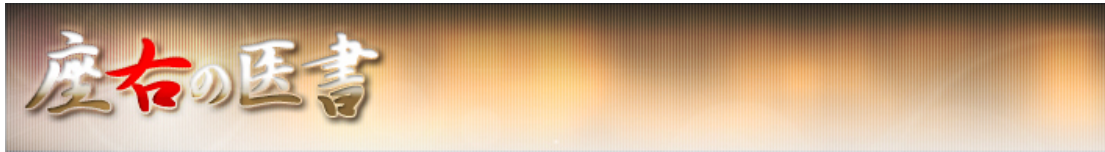


Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

Copyright (c) 2016 Pfizer Japan Inc. All rights reserved.

ホーム > 座右の医書 > 座右の医書2012 > 第9回 『市立堺病院における細菌感染症の現況』他

第9回 『市立堺病院における細菌感染症の現況』他



著：市立堺病院感染制御チーム・同院内感染防止委員会
非売品



著：藤本卓司
医学書院
2004

『市立堺病院における細菌感染症の現況』 『感染症レジデントマニュアル』

発熱に遭遇しない臨床医はありえません。発熱診療の最初のステップは、感染症か非感染症かになりますが、感染症疾患を習熟することによって、非感染症疾患についても強くなると思います。個人的には病院における総合内科医の1つの軸は感染症診療にあると思っており、発熱診療を含めた診断力も専門領域にあると思っています。そういった立場から、また毎年、臨床現場に出る新人がいるなかで、臨床医にとって必携だと心底思える本「感染症レジデントマニュアル」の話をしたいと思います。

この本を持っている医師を院内で見つけることは難しいことではありません。白衣に入れることができるサイズ、使用する頻度の多さも抜群ですが、何と言っても臨床的だからだと思います。臨床医にとっての基本的臨床能力である身体診察についての言及や、医療現場に従事するすべてのスタッフに100%の理解を求める感染管理の基本が織り込まれているのも、この本の魅力です。

ただ、自分自身は「この素晴らしい本」は読み込んではいません。実は、本書の前身となる「黄色本（自分が勝手に名づけているだけです）」を使い込みました。これは研修医1年目のころ、大学病院に院外講師として来られていた藤本卓司先生の講義を拝聴し、そのうえでこの黄色本を手に入れることができました。1年目の研修病院ではグラム染色や培養結果も実臨床に馴染んでいませんでしたし、感染症診療自体も1年目研修医の立場からでも少し疑問符がある状態でした。ただ、自分なりに黄色本は読み込みました。その後、異動した市立舞鶴市民病院では松村理司先生のもと、若手からベテラン医師、また検査技師さんも含めて、全うな感染症診療を行う土壌・文化がありました。本に書かれているグローバルスタンダードの医療と目の前の医療が合致する臨床現場で研鑽できたことは自分の大きな力になっています。残念ながら、自分以降の研修医は、もうこの黄色本を手に入れることができず、自分も持っていた本を回し読みして、一緒に勉強をしたものです（この本、今ならプレミアがつくでしょうか?）。

実はこの頃、感染症診療の成書である「Mandell」〔「Mandell, Douglas, and Bennett's Principles and Practice of Infectious Diseases 7th edition」. (Mandell, G. L., Bennett, J. E., Dolin, R., 著), Churchill Livingstone, 2009〕のことは知りませんでした。また時代的にもUp to Dateも使える時代ではありませんでした。先輩がもっている「Reese & Betts」〔「Reese and Betts' A Practical Approach to Infectious Diseases 5th edition」. (Betts, R. F., Chapman S. W., Penn, R. L., 著), Lippincott Williams & Wilkins, 2002〕を借りて読んでいましたが、自分では買えませんでした（当時の研修医には、円安の影響もあって、本当に高価でした）。

実臨床で使いやすいのは通称「熱病」〔「The Sanford Guide to Antimicrobial Therapy 2011 41 edition」, (Gilbert, D., 他著), Antimicrobial Therapy, 2011〕〔翻訳本「日本語版 Sanford オード感染症治療ガイド2011第41版」. (戸塚恭一, 他監訳), ライフサイエンス, 2011〕です。書き込みをしているので、毎年更新するのは面倒です。なので、2~3年おきにしか、買い換えていません。日本語版は少しサイズが大きいので、英語版を白衣に入れてあります。最近は便利な電子機器に入れることができるのではないかと思います。若者のように、新しい器械についていけないのが恥ずかしい…です。

良書はいろいろありますが、感染症の本は「感染症レジデントマニュアル」で十分です。この本は熟読し使いこなしてほしいと思います。発熱診療に立ち向かう医師の習い始めの本であると同時に、じっくり読み込むことで感染症診療の理解に自信がもてる本ですので、「マニュアル」として使うのではなく、熟読することをお勧めします！

Q 製品を調べる

製品名を入力

ア

- ▶ アイソボリン
- ▶ アカルボース
- ▶ アクリノール
- ▶ アシクロビル

PfizerPRO CONNECT

面倒な情報収集を

専任MRが
徹底サポート



スーパー指導医から学ぶオンライン講義
若手医師セミナー2016

製品情報改訂のお知らせ

▶ 一覧はこちら

New 2016/12/01

▶ アデリール等5製品 経過措置
移行のご案内 ☞

New 2016/11/29

▶ 【更新】アイソボリン等5製
品 包装変更のご案内 ☞

New 2016/11/29

▶ 【更新】アレンドロン酸等8製
品 包装変更のご案内 ☞

2016/11/29

▶ 【更新】アナストロゾール錠等
5製品 包装変更のご案内 ☞

New 2016/11/25

▶ ミルナシプラン 使用上の注意
改訂のお知らせ 適正使用に関
するお知らせ ☞

New 2016/11/25

▶ イフェクサー 使用上の注意
改訂のお知らせ 適正使用に関
するお知らせ ☞

New 2016/11/22

▶ ゾレドロン酸 使用上の注意
改訂のお知らせ ☞

New 2016/11/22

▶ ポラプレジック 使用上の注意
改訂のお知らせ ☞

PROFILE

川島篤志

市立福知山市民病院総合内科医長

1997年筑波大卒。2008年11月から現職。福知山に移って丸3年が経過しました。「専門内科が働きやすい病院、総合内科が活躍できる病院、研修医が生き活きと働ける病院」をめざして、総合内科診療/医学教育/地域医療との連携にじっくりと取り組み、「研修病院機能を持つ地域基幹病院の総合内科からの地域医療への貢献」を全国に発信しようとしています。京都府としての取り組み（KMCC）にもかかわっています。ブログもありますが、興味のある方は一度見学に来てください。



関連コンテンツ



あなたの臨床研修で、この一冊を見つけるために
医学図書をご紹介します

[▲ Page top](#)

[PfizerPROとは](#)

[サイトマップ](#)

[会員規約](#)

[プライバシーポリシー](#)

[Terms of Use](#)

[メディカルアフェアーズとは](#)

[Copyright](#)

[お問い合わせ](#)



Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

Copyright (c) 2016 Pfizer Japan Inc. All rights reserved.